

報道関係各位

2014年2月12日
日本アキュレイ株式会社

大阪大学医学部附属病院にて
「サイバーナイフ ラジオサージェリーシステム」の設置完了、治療開始
—治療対象部位の拡大、臨床研究の推進へ—

日本アキュレイ株式会社（社長：穂積 重紀、本社：東京都千代田区）は、大阪大学医学部附属病院（病院長：吉川 秀樹、所在地：大阪府吹田市）における放射線治療機器「サイバーナイフ ラジオサージェリーシステム」（以下、サイバーナイフ）※1の設置が完了し、治療が開始されたことをお知らせ致します。

※1 本システムは、2010年、サイバーナイフシステムの第4世代として厚生労働大臣による薬事承認を得ました。

大阪大学医学部附属病院は、地域がん診療連携拠点病院として関西圏のがん診療を支えてきました。また、大学病院として、がん診療を専門とする多数の医療者と最新の設備を有し、多くの種類のがんの患者さんに対して標準的治療とともに先端的治療を提供しています。サイバーナイフによる治療は1998年から開始され、主に脳腫瘍・頭頸部腫瘍に対しての定位放射線治療を行ってきました。新機種による治療は2014年1月下旬から開始されています。

今回の新機種導入の目的について、放射線治療学講座の小川 和彦教授は「より質の高い放射線治療を提供するために、当科は大阪府の中核となるばかりでなく、全国でもトップレベルの放射線治療科となるべく診療の向上に努めております。サイバーナイフの新機種導入によって症例数を積み重ね、より高い治療効果を上げるための研究にも取り組みたいと考えています」と語っています。また、放射線治療学講座の吉岡 靖生准教授は「呼吸の動きに対応する追尾機能が強化されたことにより、サイバーナイフによる体幹部治療が当院でも開始されます。従来から治療を行っていた部位に加えて、肺、肝臓、前立腺へと治療部位を拡げる予定です。また、線量率が前世代の2倍になったことにより治療時間の短縮化も期待しています」とコメントされています。

サイバーナイフシステムのテクノロジーは、頭蓋内・頭頸部に加えて体幹部病変にも、主に体幹部定位放射線治療（Stereotactic Body Radiation Therapy：SBRT）を提供します。また、呼吸追尾システム「Synchrony® 呼吸追尾システム」を搭載し、照射ターゲットを高精度で捉え有効線量を照射することが可能で、重要臓器や正常組織に隣接した腫瘍の治療も可能にします。



大阪大学医学部附属病院について

大阪大学医学部附属病院は 1869 年に大阪府が大福寺内に設置した仮病院・医学校を起源とし、「教育・研究・診療」を推進してきました。「地域に生き世界に伸びる」のモットーに従い、地域中核病院として幅広い医療活動を行いながら、世界に発信できる先進医療の開発を行っていくことを目指しています。(<http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/>)

アキュレイについて

Accuray Incorporated (NASDAQ: ARAY)は、本社をカリフォルニア州サニーベールにおく放射線腫瘍学の企業です。同社は、患者さんのより長く、より良い生活の支援を目標とし、標準治療となる患者さんごとの革新的な治療ソリューションを開発、製造、販売しています。同社の先端的技術はあらゆる範囲の放射線療法、放射線手術治療を提供することができます。

日本アキュレイ株式会社は、Accuray Incorporated の日本法人です。日本アキュレイ株式会社の本社には、医療従事者向けトレーニング施設「Accuray Technology Exchange Center (ATEC/エイテック)」が併設され、医療従事者向けのトレーニングにも力を入れています。(<http://www accuray.co.jp/>)

第4世代サイバーナイフシステムについて

2010年7月に薬事承認を受け、同年10月より販売を開始。販売名「サイバーナイフ ラジオサージェリーシステム」。線量率を前世代の2倍とし、コリメータの自動変換機能の新規搭載や治療計画装置における新しいアルゴリズムの採用など、体幹部治療に適した仕様となっています。

本件に関するお問い合わせ先

日本アキュレイ株式会社 マーケティング 武田 卓子／相子 純子
TEL : 03-6265-1544 FAX : 03-3272-6166
ttakeda@accuray.com / jaiko@accuray.com

参考資料



大阪大学医学部附属病院に新たに設置された
放射線治療機器「サイバーナイフ ラジオサージェリーシステム」(第4世代)

※ 画像はイメージ